

シンポジウム「特許調査能力を如何にして身につけるか」を開催しました

- 5月度ATIS例会（その1） -

5月度の例会で、シンポジウムを開催しました。「特許調査能力を如何にして身につけるか」というテーマで、熱心な討論が行なわれました。シンポジウムは年に1回の開催で、場所は大手町のJXホールディング講堂でした。

パネリストは4名、INPIT主催の特許検索協議大会の優勝者がずらりと壇上に並びました。

2009年度優勝の田中志帆里さん（ネットス）、2011年度優勝者の三栖茉奈美さん（アズテック）、2012年度優勝者の伊藤史さん（トヨタテクニカルディベロップメント）、伊藤さんの上司の永井正人さんです。

コーディネーター金澤祐孝さん（IHI）の司会で討論が行なわれました。

パネラーの自己紹介から始まり、優れた調査をするために必要な能力、スキルをいかにして身につけるかを、おのおののパネラーから紹介していただきました。

「検索大会・優勝のためのポイント」「検索大会と日常業務の違い」「コストと品質」「能力向上への自己研鑽、会社の支援」「初心者サーチャーへのアドバイス」などのテーマで話が進んでいきます。

調査専門会社に所属する田中さん、三栖さんとトヨタ自動車の知財を扱う子会社に所属する伊藤さんの違いが興味深く、幅広い議論が展開されました。

永井さんからは「上司から見たサーチャーに必要な能力」、アドバイザー田端泰広さん（ATIS顧問）から「サーチャーの評価」についてアドバイスをいただきました。

出席者は97名。過去最高の出席者数で、いつもの例会の1.5倍以上の参加人数でした。あっという間に2時間が経過しました。シンポジウム終了後の懇親会でも、熱心な討論が続いていました。



パネルディスカッションの様子



永井さん

伊藤さん



三栖さん

田中さん